

## 6 アビダルマの“あ”

【全4回】／開催方法：ハイブリッド

きむら ゆかり  
木村 紫

立正大学  
非常勤講師



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：7月22日)

### 【日程・時間】【全4回】

7月26日(土) 12:30~14:00 / 14:10~15:40

7月27日(日) 10:15~11:45 / 12:30~14:00

### ■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

ダルマという言葉は知っていても、アビダルマという言葉になるとどうでしょうか。ご存じの方でも、見たことがないような漢字の並んだ、煩瑣なわけのわからないものという印象をお持ちかもしれません。複雑に見えますが、釈尊の言葉をどのように理解するか、教えを項目ごとに分類、分析することに始まり、さらには発展的な議論も大きく展開していきました。そして、その主たる分析対象は、ほかならぬ私たち自身です。

仏教では「一切皆苦」と説かれますが、苦という結果には、原因があります。その苦にも滅があり、その滅に至る道があります。私たちはどういう存在であり、どうしてここに生まれてくることになったのでしょうか。苦から逃れるためには、何を捨て、何を取るべきでしょうか。アビダルマはその考察の足跡とも言えます。

ヴァスバンドゥ（世親）が書いた『阿毘達磨俱舍論』は、もっとも有名なアビダルマ論書であり、後世の論師たちにも大きな影響を与えました。

本講座では、その『俱舍論』の記述をもとに、アビダルマで説かれる“あ”のつく言葉を探り上げて、そのこみいったジャングルを少しかき分け、垣間見ていきます。

#### 1. アビダルマと『阿毘達磨俱舍論』

まず、アビダルマという言葉がどういう意味であり、どのように考えられたかをみてみましょう。また、『俱舍論』そのものについてもお話いたします。

#### 2. 愛

十二支縁起の八番目が愛ですが、残念なことに、煩悩であり、ロマンティックな話にはなりません。愛は何によって生じ、愛によって何が生じるのか、記述を辿っていきます。

#### 3. 悪趣

「人」は善趣とされています。普通の人で、煩悩がない人はいないでしょうが、悪しき行為の結果により、悪趣、例えば「地獄」に墮ちる人もいます。地獄や、地獄に墮ちる行為についてどのように説かれているか見ていきます。

#### 4. 阿羅漢

阿羅漢は、修行の結果、輪廻を離れる、もう学ぶものが何もない無学です。この阿羅漢に至る道について概観します。

### 【参考書】

存在の分析〈アビダルマ〉—仏教の思想2

著者：上山春平・櫻部建 出版社：角川書店 出版年：1996